

令和3(2021)年度 第3回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和3年12月8日(木) 15:00～16:10
- 2 場 所 栃木県立那須高等学校会議室
- 3 出席者 委員11名 栃木県教育委員会事務局3名 本校職員10名
オブザーバー1名 一般傍聴者1名
- 4 司 会 本校教頭
- 5 式次第

- (1) 開会
- (2) 学校運営協議会長挨拶
- (3) 学校長挨拶
- (4) 委員紹介・出席者紹介
- (5) 議事(下記6の通り)
- (6) その他
- (7) 閉会

6 議事

○学校からの報告

・進路状況について

資料4～6ページ 進学・就職希望人数は資料の通り。

4年制大学への進学決定者は現在3名で、いずれも指定校推薦。

昨年度に続きコロナ禍の影響で求人数の減少が懸念されていたが、黒磯・大田原管内の求人の人数は一昨年度と同程度である。

今後も国際情勢により求人数が増減することが予想されるが、基礎学力の会得やコミュニケーション能力の向上を中心に、どんな状況下でも就職・進学活動を耐えきることのできる生徒の育成を目指す。

・一日体験学習について

資料7～9ページ

リゾート観光科は生徒12名、保護者8名 普通科は生徒52名、保護者9名の参加。

体験学習当日、参加した中学生と保護者を対象にアンケートを実施した。統計は資料の通り。

授業体験前の全体説明で、生徒商業研究発表にてリゾート観光科の生徒が発表したものを披露。

・行事、部活動について

本校ホームページ参照

2学期は11月の文化祭・校内発表会、マラソン大会が中心

夏休み期間中の7月に那須町主催のオオハングソウの駆除活動に参加した。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で現3学年のみの参加になったが、今年度は全員参加できた。

部活動については、各部とも昨年度以上にホームページの更新を積極的に行っているので時間があるときに確認していただきたい

・総合的な探究の時間について

本校ホームページ参照

[2年生]

地元友達プロジェクト 14施設に受け入れてもらい実施。

各施設でのレクリエーションや講座に参加する。

全5回の活動を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により第3回が中止になったため全4回の活動になった。

那須塩原市の公民館では、第1回目は顔合わせ、今後の計画を行い、第2回から本格的に活動を開始した。

最初の1～2回は、相手が大人ということもあり緊張した様子が見られたが、3回目以降は公民館の方と会話しながら積極的に活動することができるようになった。

生徒の感想を本校ホームページに掲載しているので、時間があるときに確認してほしい。

[1年生]

年間を通し、地元人物図鑑の作成を目指して活動している。

9月に、那須で伝統工芸を営む中村舞子氏、中島睦巳氏、白井克典氏の3名に講話をいただいた。

11月には生徒が実際に地元の職業人の方24名にインタビューを行った。

多くの生徒が卒業後地元で働くことを鑑みて、数年後職場や周囲に知人がいる状況を作っていきたい。

タブレットを用いたインタビュアーについての調べ学習、マナー講座を経て、那須町在住もしくは那須町で活動をしている職業人の方にインタビューを行った。

今回の企画で作った地元と学校とのつながりを大切に、さらに活動の幅を広げていきたい。

デザイナー協力のもと図鑑は年内に完成の予定している。そのほか生徒の発表会も企画中である。

人物図鑑は冊子として発刊し、ご協力いただいた方をはじめとした様々な場所に配布する予定。

○魅力化、特色化に関する意見交換

・資料説明

資料10～14ページに「那須高校の魅力化に関するアンケート」の結果を記載している。

260人を対象に実施し、今回が第1回、今年度末に第2回、来年度末に第3回を行う予定。

統計は資料の通り 以下自由記述の内容

[那須高校の魅力について]

- ・授業参観を見に行ったが、授業や教員の対応が丁寧
 - ・姉の代から通っているが、その頃に比べ生徒や学校全体の雰囲気がよくなっている
 - ・公仕の方のお力添えもあり、校内の植木の剪定が素晴らしい
- 上記のような好意的な意見がある一方で、
- ・魅力は特にない
 - ・悪い話ばかりで卒業生を名乗りたくない

・「魅力がない」という選択肢がアンケートの中に入っていないのが問題
というような意見もあった。

今回の回答がスタートなので、今後の内容がどう変わっていくかに注目していきたい。

当校だけにとどまらず、学校に関するアンケートを行う際に、「わからない」という項目の選択率が高い。より効果的な結果を得るために、学校そのものの興味を持ってもらえるようにすることが大切だと考えられる。

・意見交換

[委員] アンケートを見ても、地域活動が大きな魅力である。

地元に就職する生徒、進学後も地元に残る生徒が多いので、今後の人間関係をよりよくしていくためにも、地域を中心にした活動はよい試みだと思う。

[委員] 生徒から、「講師の方のようにいろいろなことに興味をもっていきたい」という感想を聞くことができた。他人、大人とふれあう中で、生徒が刺激を受けられる活動が多いとよいと思う

[委員] そもそも学校運営協議会とは何なのかということを考えたときに、学校をよりよくするための集まりである以上、もっと学校の活動中に入っていきたいと思う。先生が困っていることについて、もっと力になりたい。

黒田原小学校では、二年生に対する九九の指導について教員が悩んでいる。この件に関して、那須高校で有志の生徒を集い、放課後の時間を使って指導させてはどうか。自分より年下の子供とふれあうことを通して生徒も成長できるし、地域活動の一環として学校の魅力化にもつながると思う

[委員] 協議委員会の中で取り上げられる情報量が多すぎる。もっと絞って会議を行った方が、建設的な議論が行えると思う。

[委員] 数年間この学校の様子をみているが、ここ2年ほどの生徒はそれまでの生徒に比べ、特段に地域との関わりが多い。大人と会話することはとても大切なので、さらに地域を学習の場として活用してほしい。

[委員] 総合的な探究の時間の活動の影響もあってか、生徒たち自身が問題提起できるようになっている。このような機会を大切にしたい。

[委員] もっと PTA の活動をもっと充実させたい。

[委員] 昨日、本校の教員が ICT 活用の研究授業を見学に来てくれた。今後もどんどん参加してほしい。不登校気味であったり、不安を持っていたりする生徒を対象にして教育相談室のような場所をもうけているので、相談員や付き添いとして本校生徒にも参加してもらえたらいいのではないかな。

[委員] 総合的な探究の時間の活動のなかで、生徒が大人と会話する機会が多く、生徒も緊張したと思う。そのような場面をたくさん作り、大人の前でも発言できるような人間力の育成を目指したい。現在はそういった場面は見られないが、今後、総合的な探究の時間の活動について3年生が2年生に、2年生が1年生にやり方を教えるような場面が見られるようになると思う。

[オブザーバー] 現場の先生の声を知りたいと思う。総合的な探究の時間に対して、教員がどう思

っているのか、どのような見方をしているのか知りたい。

小学校・中学校では教育活動の中に地域の人に関わる場面が多くある。それに対して、高校になると地域性が薄くなったり敷居が高くなったりするような印象があるため、そうではなく、高校にも地域の方が入れる場面を作っていければいいと思う。

[委員] 中間報告ではあるが、学校全体が前に動き出しているような印象をうける。このまま様々は活動を通して、さらに充実した教育活動を行ってほしい。

○その他

第4回学校運営協議会の開催日時を1月19日水曜日から3月17日木曜日に変更したい。

総合的な探究の時間の活動報告を日中通して行う予定で、それを見ていただいたのち学校評価を含めて運営協議会を実施したい。

変更後の日程については後日書面にて連絡する。